

生物多様性の保全活動について～ カワバタモロコの飼育・保護～

姫路半導体工場 管理部環境保全担当
株式会社東芝 セミコンダクター&ストレージ社

はじめに

東芝グループでは、持続可能な社会実現に向け、グローバルな領域で東芝グループ環境アクションプラン（第5次を2012年6月公表）を策定し、様々な活動に取り組んでおり、それら活動の一環として、東芝グループ主要拠点において、ピオトープ（生物が住みやすい環境）の整備を進めています。

当工場の取組みとして、構内環境施設であった直径3.3m・深さ0.6m程度の小さな丸池を水生生物のピオトープとして活用出来ないかと、兵庫県立大学田中先生に相談させていただいたところ、地域に縁のある淡水魚として、カワバタモロコ（兵庫県の絶滅危惧Aランク）を紹介いただきました。県内を流れる揖保川流域固有の遺伝子を持つカワバタモロコは、全国的にも姫路市水族館で生息保護されている成魚しか現存していないことから、種の保存の観点からも適切と判断し、カワバタモロコの飼育・保護活動に2013年5月から着手しました。

飼育・保護活動（2013年5月よりスタート）

カワバタモロコは、同居できる魚の種類が少なく、更にヤゴが生息していると、産卵後の卵や稚魚を食べられてしまうおそれがあったため、丸池内の整備（特に空干し）は念入りに行いました。

丸池内には大量のヤゴが生息していたため、全てのヤゴを捕獲し、構内の他の環境施設へ移したり、生息場所に必要水草等（アサダやフトイ、ウイローモス、カズノゴケ、マツモ）を、姫路市水族館や構内環境施設から確保し、丸池へ植付けする等を行いました。

同年6月5日、田中先生支援のもと、姫路市水族館より提供頂いたカワバタモロコ26匹（雄14匹、雌12匹）を丸池へ放流し、14日後には稚魚（5mm程度）を多数確認出来ました。

個体数調査（2013年10月31日から11月8日にかけて調査）

田中先生・姫路市水族館協力のもと、推定法（Petersen法）に基づく個体数調査を実施しました。

丸池内の3か所にトラップを設置し30分後に回収。捕獲したカワバタモロコの尾びれに印を付け、再び丸池へ放流。翌日、丸池内の3か所（同じ場所）にトラップを設置。30分後にトラップを回収し、捕獲したカワバタモロコの印を調べるといふもので、この作業を調査精度向上のため数日間にかけて実施しました。

この結果、約500匹のカワバタモロコが確認出来ました。



まとめと考察

兵庫県絶滅危惧Aランクであるカワバタモロコであっても、生育環境等を整備すれば、工場構内の小さな丸池でも、飼育・保護出来ることが確認できたことは、今後の展開を見据えた意義のある結果となりました。当工場では、カワバタモロコを近隣小学校へ提供する等し、地域と一体となった保全・保存活動にこれからも取り組んでいきます。